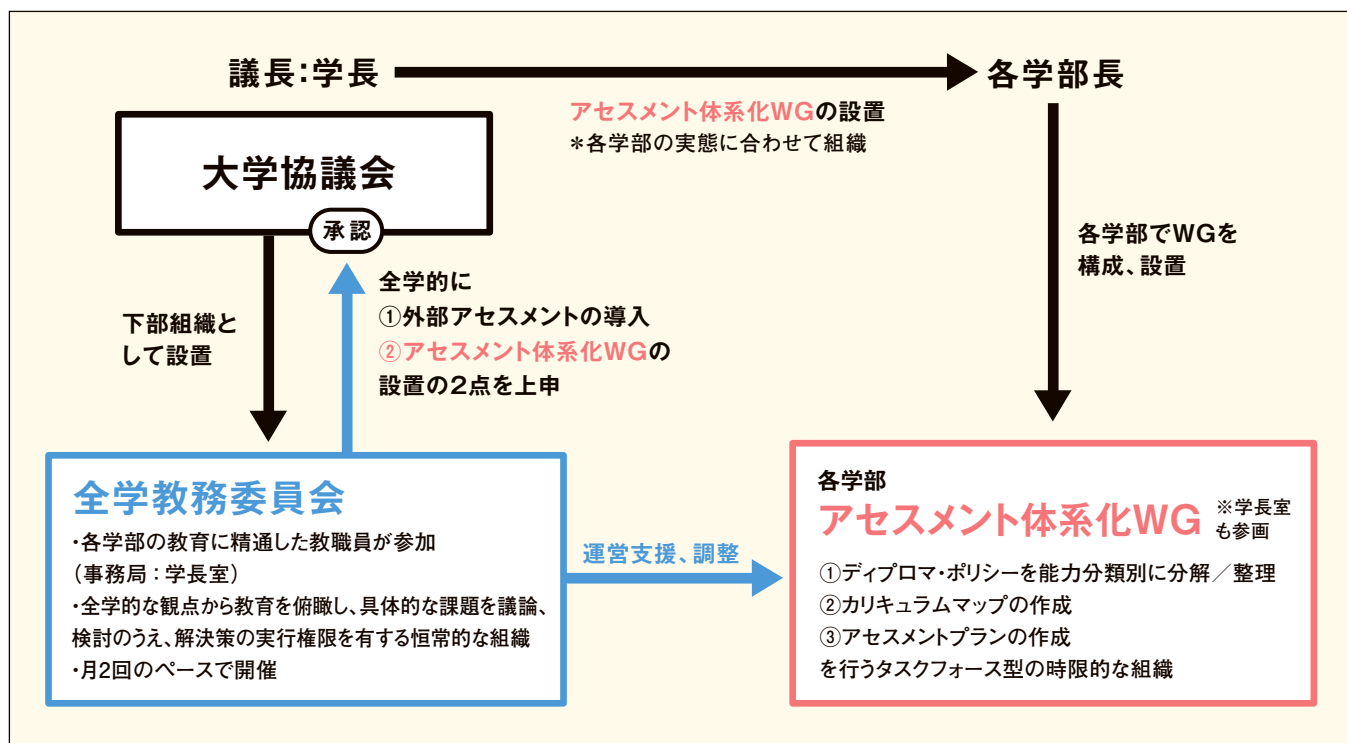




学生数/約5400人
 学部/医、薬、理、看護、健康科学
 大学院/医学、薬学、理学、看護学
 ▶THE世界大学ランキング2021/1001+位、同日本版2021/151-200位

教学マネジメント推進体制図



PDCAを回す工夫

授業科目レベル	学位プログラムレベル	大学全体レベル
▶大学全体レベル、学位プログラムレベルの方針を定め、成績評価のやり方、評価の標準化に今後取り組む予定	▶各学部の実態に合わせてWGを組織。学部の独自性を生かしながら、プランニングを進める	▶学長室の職員が各学部のWGに参加し、情報やフォーマットを提供。学部によって方向性がばらつかないように全学教務委員会が適宜調整を行う

注目! 学部の独自性を尊重しつつ 足並みをそろえるマネジメントの工夫

「各学部のやりたいことや特性を尊重しつつ、全学的な足並みをそろえる」ため、東邦大学では学長の意向をくんだ学長室の職員が全学教務委員会に参加し、各WGの運営支援を行っている。学長室の役割は3つある。1つ目は情報提供。過去の学士力答申や経産省の社会人基礎力、教学マネジメント特別委員会の動向など、国の施策について情報収集を行い、WGでレクチャーし、適宜教員の疑問に対応する。2つ目はDPの能力整理やカリキュラムマップ策定用のフォーマットの提供だ。同一手順での議論、整理により、大学全体での整合性を取りやすくなっている。3つ目は調整機能。各WGの進捗を大学協議会に報告、必要に応じて同委員会が調整するしくみをつくっている。

▼DPの能力整理フォーマット

能力別分類	現行DP番号	現行DPを分解・整理した具体的な能力	学年別の具体的な到達能力			
			4年	3年	2年	1年
知識・理解						
技能		●●学	○	○	○	○
		△△△△論	○	○	○	○
姿勢・態度		●●学演習	○	○	○	○
		●●学演習	○	○	○	○

▲カリキュラムマップフォーマット

能力別分類	知識・理解	技能	姿勢・態度	学年別の具体的な到達能力			
				4年	3年	2年	1年
●●学	○	○	○	○	○	○	○
△△△△論	○	○	○	○	○	○	○
●●学演習	○	○	○	○	○	○	○
●●学演習	○	○	○	○	○	○	○

左上はDPの能力整理用統一フォーマット。「知識・理解」「技能」「姿勢・態度」の3分類に整理し、学年ごとの具体的な到達能力を設定する。右下のカリキュラムマップで目標に対する授業の関与度を○△の3段階で評価。評価基準も設け、ぶれぬように工夫。後者はカリキュラム上の科目の過不足チェック機能も果たす。

学部単位の質保証から 全学レベルの教学マネジメントへ

CASE STUDY

東邦大学

認証評価機関からの指摘をきっかけにDPに掲げた能力の達成度評価に着手。現在は全学的な教学マネジメントの構築をめざす東邦大学に、これまでの歩みと工夫について聞く。



学長 高松 研

たかまつけん ●1982年慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程修了。1983年三菱化成工業株式会社総合研究所研究員。1985年慶應義塾大学医学部講師。1991年東邦大学医学部助教授。1994年同大学教授。2012年医学部長を経て、2018年より現職。

認証評価で自覚した 内部質保証の課題

本学は医、薬、理、看護、健康科学の5学部を持つ自然科学系の総合大学です。学生の多くが国家資格を取得し医療現場等で働くこともあり、かねてから各学部では教育の質保証に厳しく取り組んできました。その一方で、大学全体の教育成果を体系的に検証するしくみは持ち合わせていませんでした。これを自覚したのは2017年、3巡目の認証評価受審の準備を進めていたときです。

同時期に「東邦大学グランドデザイン2025」を策定、これを機に全学的な教育の課題を議論していたところ、文科省の教学マネジメント特別委員会が出された課題と本学の課題が一致していたため、教学マネジメントに取り組むことにしたのです。早速大学協議

改善課題に対してまず検討したのは、汎用的能力を測るアセスメントの全学的な導入です。導入にあたってはアセスメントプランが不可欠ですが、学部の考えも尊重しなくてはなりません。そこで全学教務委員会による運営支援の下、アセスメント体系化ワーキンググループ(WG)を学部ごとに設置し、1年をかけて具体的なプランニングを行いました。WGでは、「教学マネジメント指針」の

改善課題に対してまず検討したのは、汎用的能力を測るアセスメントの全学的な導入です。導入にあたってはアセスメントプランが不可欠ですが、学部の考えも尊重しなくてはなりません。そこで全学教務委員会による運営支援の下、アセスメント体系化ワーキンググループ(WG)を学部ごとに設置し、1年をかけて具体的なプランニングを行いました。WGでは、「教学マネジメント指針」の

改善課題に対してはまず検討したのは、汎用的能力を測るアセスメントの全学的な導入です。導入にあたってはアセスメントプランが不可欠ですが、学部の考えも尊重しなくてはなりません。そこで全学教務委員会による運営支援の下、アセスメント体系化ワーキンググループ(WG)を学部ごとに設置し、1年をかけて具体的なプランニングを行いました。WGでは、「教学マネジメント指針」の

I〜IIIの流れに沿って作業を進め、まずDPに定めた能力を、改めて分類し直して整理。さらに各能力に対して「どの授業が」「どのように関与」しているのかをカリキュラムマップをつくって確認し、それを基にアセスメントプランを策定しました。

この作業に取り組む中で、各学部では「卒業論文を適切に評価するルーブリックがない」「DPに掲げた○○力を育成する科目の偏り」などのさまざまな課題が発見され、その解決に向け具体的なアクションプランが次々と提案されました。以前より3ポリシーの見直しや学修成果の可視化なども、個別には議論されていたものの、点で終わってしまいがちで、一連の流れにはなっていませんでした。今回、点と点が結びついて線になり、さらに全学部に広がって面になったのは、大きな前進です。

今後の課題は教学IR体制の実質化です。学長室にIR担当を置いてはいたものの、学部の利用は今一つ。それがWGの活動を通じてIRへの理解が深まり、データの活用にも前向きになりつつあります。まずは導入したアセスメント結果を各学部に提供し、学修目標として定めた汎用的能力の達成度を測るしくみを整えていきます。